



へそにはどうしてごまがあるの

へその「ごま」はへそにたまったごみ

へそはへこんでいるため、まわりの、ごみやあかがたまりやすいのです。ですから、へそのごまは、ごまのように見えますが、本当は、ごみが、ごまのようにかたまっただけなのです。

「へそ」は「へそのお」がとれたあと

「へそ」は、生まれたときにいらなくなった、「へそのお」がとれたあとです。へそのおは、おなかの中の赤ちゃんとお母さんをつないでいた管のようなもので、赤ちゃんは、自分の体に必要な酸素や栄養など、生きていくのに必要なすべてのものをおなかのへそのおで、お母さんからもらっていたのです。それが、生まれたときに切りはなされて、そのとれたあとが、ずっと、へこんだままになっているのです。

そのため、体のあかやまわりのごみがたまり、へそのごまになるのです。へそのごまがたまらないように、お風呂に入ったときには、ていねいに洗っておきましょう。

しかし、だからといって、気にしすぎて、つめでほじって傷をつけたりすると、そこからは菌が入ることがありますので、注意しましょう。

へそのごまをとると、おなかが痛くなるのは

おへそはおなかの中では、腹膜という、内臓を包んでいる膜につながっています。

この腹膜には、たくさんの痛さを感じる神経があり、へそのごまをとろうとして、へその中のびん感部分にさわったりすると、おなかの中にある腹膜をしげきしてしまうために、おなかの痛みがひどくなったりします。（監修・保志 宏）

